

琉球大学学術リポジトリ

苗木の活着をよくする蒸散抑制剤

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大宜味, 朝栄 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20427

苗木の活着をよくする

蒸散抑制剤

蒸散抑制剤

床替、造林、さし木等の発根、活着をよくする為の薬剤が出来ました。これは石油製品の副産物としてでるパラフィンに乳化剤化したものです。現在市販されているものにNPCワックス、ミクロン、グリーンナー等があります。

移植、さし木、接木等は植物にとっては大きな手術にあたるもので、この時には根から吸収する水分より葉面から蒸発する水分が多い為、植物生体内の水分関係のバランスが崩れてしまい、しをれたり枯死しがちです。この蒸発と吸収のアンバランスを是正する為、従来、葉を切落したり日覆をしたりしていましたが、生長又は発根に重要な役割を果たす葉面積を減少させないで、蒸散を抑える薬剤の出現が望まれていました。前に述べました薬剤は葉面からの蒸散を薄い皮膜によって最小限に抑え、丁度、温室内にある様な被覆状態にする事が出来るので、いちやうを防ぐ事が出来、ひいては発根、活着をよくし、更にその後の生長をよくする事が出来ます。

グリーンナーの使用方法和注意

使用法についてであります。原液はタル又はバケツで普通5-6倍の水でよく混ぜ合わせ、噴霧器を使用して散布します。濃度の少し位の差とか散布量の多少は問題にならない様ですし、安心して散布が出来ます。散布時間は早朝か夕方に行い、日中は出来る限り避けるようにします。又、流失の心配がありますので降雨前は止し

た方がいいです。注意する点は他の農薬類を使用し、これが一たん、乾燥してから本剤を使用する事は差支えないのですが、他の農薬との混用は絶対に止める事です。又、使用後の噴霧器はよく洗い、特にノズルの所は完全に水洗いします。

作業の要領

次に作業上の注意ですが、床替えの場合は一たん掘起し、日蔭又は作業小屋内で根の乾燥を防ぎながら散布します。滴り落ちる程かける必要はありません。しっとり潤う程度で充分です。そして乾いた時分、植付けます。山出用苗木の場合、要領は床替えの時と同様ですが、特に根の乾燥を防ぐ意味から、掘取り前散布し、乾燥後に掘取る様にすれば、苗木が十分水分を吸収しているので良い結果が得られます。これは床替の場合にも適用されます。

さし木の場合、採集した挿穂をすみやかに日蔭に並べ前と同じ様にしっとり潤う様に散布します。この時、切口にかからない様に注意します。しかし、作業が困難な場合、挿穂を取る前、母樹にある時に薬液を散布し、乾燥後に採集してさし付ければ一層効果的です。接木の場合、接穂を母樹から採集する前に処理すればよいわけです。又、大きい樹木の時是最小限にせん定を行って後、薬剤散布します。

この外に干害予防にも同様処理すれば、日覆を使う場合より簡便ですし、よく根糸の発達した苗木が得られます。

(10ページにつづく)

(3ページからつづく)

以上主に林業方面への利用について述べたわけですが、農業、園芸等でも使用され、効果が現われている様です。

試験の一例

私はトキワギヨリユウ一年生山出用苗木にグリーンナー5倍溶液の処理試験を実施しましたが、その結果について簡単に述べてみましょう。

先づ試験区は次の通り3区に分けました。一つは掘取り前日散布区：45本、もう一つは掘取り後散布翌日植付区：50本、他の一つは無処理区：50本です。この際苗木の大きさ、生育状況等、大体、類似のものを試験に用いた事は申すまでもありません。昨年9月26日首里石嶺の苗畑で防風林造成の為に植付け、灌水は植付後根元に4回位行いました。10月24日枯死本数調査をしましたが、次の様な結果が出ました。掘取り前日散布区：5本枯死、活着率80%、掘取り後散布翌日植付区：32本枯死、活着率36%、無処理区：30本枯死、活着率40%、以上の通りでした。僅か1回の、然かも少ない本数での試験ですので判定出来ませんが、掘取り前散布区の苗木が他の場合に比して2倍も良い活着率を示した事は注目すべきことでしょう。掘取り後散布翌日植付区が無処理区に比べていくらか悪いのは乾燥、即ち光線と風の影響によるものと試験経過から推定しています。結局、苗木の種類、気象状況、作業法等により差異があるわけですが、蒸散抑制、活着促進の薬剤効果、並びに経済効果があるのではないかと考えております。

(大宜味朝栄)